

第2章 被災地における警察の活動

4 検視・身元確認

検視等

犠牲者の遺体は、警察において検視等を行い、身元を確認した上で遺族に引き渡すこととして、います。大規模災害時には、被害規模を正確に把握する上でも、警察による検視、身元確認等の活動は非常に重要となります。特に多くの遺体が収容された岩手県、宮城県及び福島県には、全国の都道府県警察から、**延べ約 25,000 人、1日当たり最大 497 人**の広域緊急援助隊（刑事部隊）が派遣され、**医師や歯科医師の協力**を得て、遺体の検視、身元確認等を行いました。

これらの活動は、体育館の長机を検視台代わりにするなど応急的に活動環境を整備した上で、**断水や停電等の厳しい条件**の中、遺体の全身に付いた泥を川やプールから汲み上げたわずかな水で丁寧に洗い落とし、数少ない照明の下で身元特定に資する手術痕や痣等^{あざ}を細心の注意を払って確認しながら行われました。

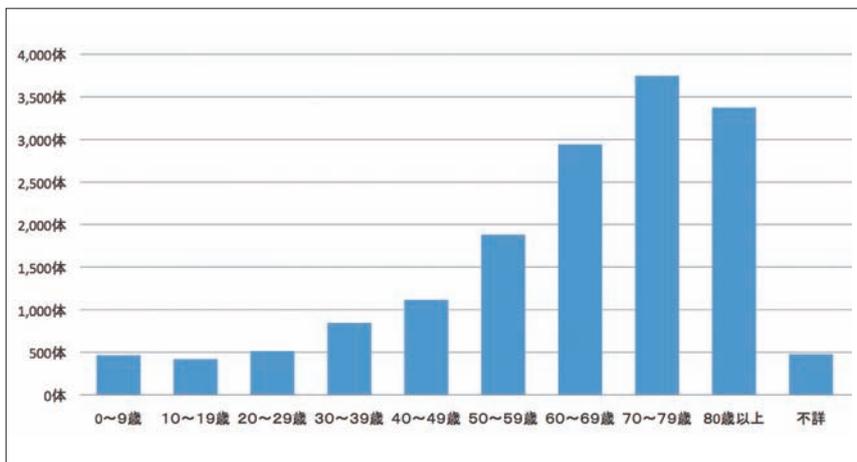


遺体の安置状況 (宮城県利府町)

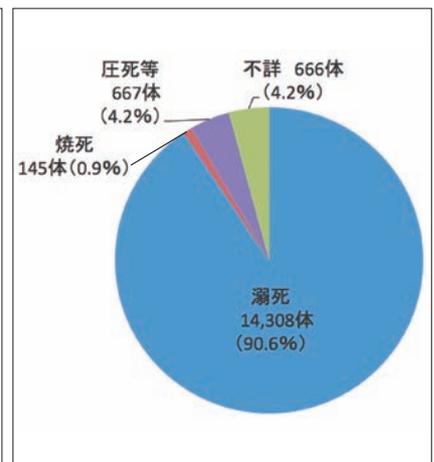


検視等の実施状況 (宮城県角田市)

警察で検視等を行った遺体は **15,000 体を超え**、その **90%以上の死因が溺死**でした。また、年齢が判明している死者の約 65%が 60 歳以上であり、津波の押し寄せる中で、**多くの高齢者の方々が逃げ遅れる**などして犠牲となった実態が浮き彫りとなっています。



死者の年齢別内訳 (24年2月29日現在。岩手県、宮城県及び福島県において検視等を行った遺体を対象とする。)



死者の死因内訳 (左同)

身元確認

遺体の身元確認は、その所持品や発見場所からの氏名や住所の特定、遺族による対面等により行いますが、今回の震災に伴い収容された遺体は、津波に飲み込まれて**居住地等から相当離れた場所で発見**されたり、**所持品等が流失**しているケースも多く、身元確認の作業は難航しました。

こうした中で、家族の安否が確認できない被災者の方々が、わずかでも手掛かりを得ようとして、居住する県内だけでなく県外の遺体安置所にまで、連日、足を運んでいる状況もみられました。

このため、警察では、事後の身元確認に備え、検視等に際して**遺体の指紋、掌紋及びDNA型検査資料の採取**や**歯牙形状の記録**を徹底して行うとともに、**遺体安置所に遺体の写真**やその**着衣、性別、身体特徴等の情報を掲載した台帳**を備え付け、**県警察のウェブサイト**にもこれらの情報を掲載するなど、被災者の心情にも配慮した取組を行いました。



遺体安置所を訪れた遺族への対応



台帳の備え付け



県警察ウェブサイトでの着衣等の写真の掲載



台帳の供覧

第2章 被災地における警察の活動

また、行方不明者の家族から、行方不明者本人に係る**DNA型検査資料の提供**を受けるほか、**日本赤十字社の協力**により、行方不明者の献血した血液検体の提供を受け、これらと収容された遺体のDNA型との照合を行うなど、様々な手法による身元確認を行っています。

こうした取組により、収容された遺体の**約 97.1%となる 15,331 体**について身元が特定されています(24年3月11日現在)。

事 例 ～法医学者の手記～

その日は被災地の小学校の体育館だった。天井からつるされたブルーシートで仕切られ、玄関側で警察官や法医学者が遺体の検視、検案を行う。ステージには身元の特定された遺体が棺に入れられ、家族との面会を待っていた。(中略)

ステージから常に遺族の泣き声やおえつが漏れていた。必死でこらえる声、運命を呪う声、ぶつける先のない怒りの声を聞きながら、「冷静な科学者でいなければ」と必死に自制した。

しかし、自分の娘によく似た小さな遺体を目にしたとき、涙をこらえられなかった。大切に抱えていた緊急持ち出し袋には大量のレトルト食品が詰め込まれていた。持って走るには、きつと重すぎただろう。(中略) 着の身着のままで逃げていけば…。そう思わずにはいられなかった。

(平成 23 年 4 月 4 日東京新聞夕刊)



検視の様子

事 例 ～現場警察官の声～

●「遺体をなるべくきれいにしてあげたいが、水不足のため、やむなく川の水を汲み上げてきて、タオルで何度も何度も遺体を拭き清めている。」

●「震災で家族を失った悲しみを胸に秘め、黙々と管内住民の遺体の捜索に従事している警察官が何人もいる。」

●「帰隊する際、敬礼で見送ってくれた県警の人が泣いていた。「この人たちも被災者なんだ」と痛感した。」

●「倒壊家屋における行方不明者捜索の際、家人の女性から「孫の成人式の写真をどうしても探してほしい」と言われ、がれきの下から写真を見つけ出した時にとっても感謝された。行方不明者を捜すことも大切であるが、それぞれの思い出の品や写真を見つけてあげることもとても大切なことだと実感した。」



遺族への遺品の返却